

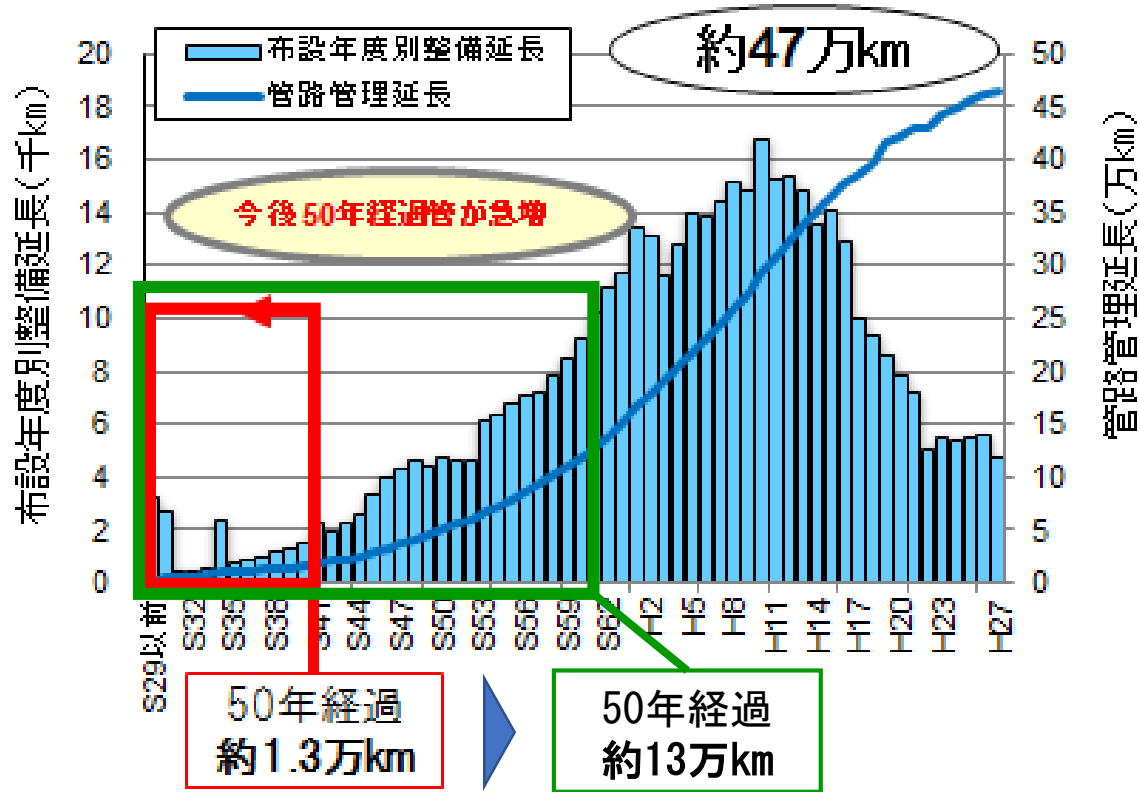
地方のインフラ整備（下水道）

平成29年11月16日

内閣官房 行政改革推進本部事務局

下水道事業の現状と主な課題

■ 管路施設の年度別管理延長(H27末現在)



国土交通省ホームページ資料
http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000135.html
に、一部追記したもの。

汚水処理人口普及率は90%(平成28年度末)

今後10年程度で整備が完了する見込み。

老朽化施設の増大

敷設から50年経過する管路が、約1.3万km(平成27年度末)。20年後の2035年頃には、全体の約3割(平成27年度末比)となる約13万kmに達する見込み。

経費の回収が不十分

経費回収率(※)が100%未満の自治体が約8割。使用料で汚水処理経費を十分に回収できていない状況。

※汚水処理に要した経費(公費負担分除く)を、どの程度、使用料で賄っているかを表す。

下水道事業の主な取組

インフラの老朽化対策等

国
(インフラ長寿命化基本計画)

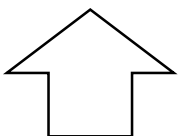
老朽化対策の基本方針

県・市町村
(公共施設等総合管理計画・
個別施設計画)

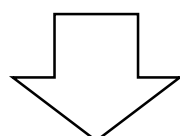
老朽化対策の行動計画

県・市町村等の公営企業
(公営企業会計の導入促進等)

使用料



サービス
を提供



住民

下水道事業の方向性を示す

国土交通省

新下水道ビジョン
(平成26年7月)

「循環のみち下水道」の持続

- アセットマネジメントの確立
- クライシスマネジメントの確立
- 国民理解の促進とプレゼンスの向上
- 下水道産業の活性化・多様化

「循環のみち下水道」の進化

- 健全な水環境の創造
- 水・資源・エネルギーの集約・自立・供給拠点化
- 汚水処理の最適化
- 雨水管理のスマート化
- 世界の水と衛生、環境問題解決への貢献
- 国際競争力のある技術開発と普及展開

新下水道ビジョン加速戦略
(平成29年8月)

マネジメントサイクルの確立
⇒適切な使用料設定等

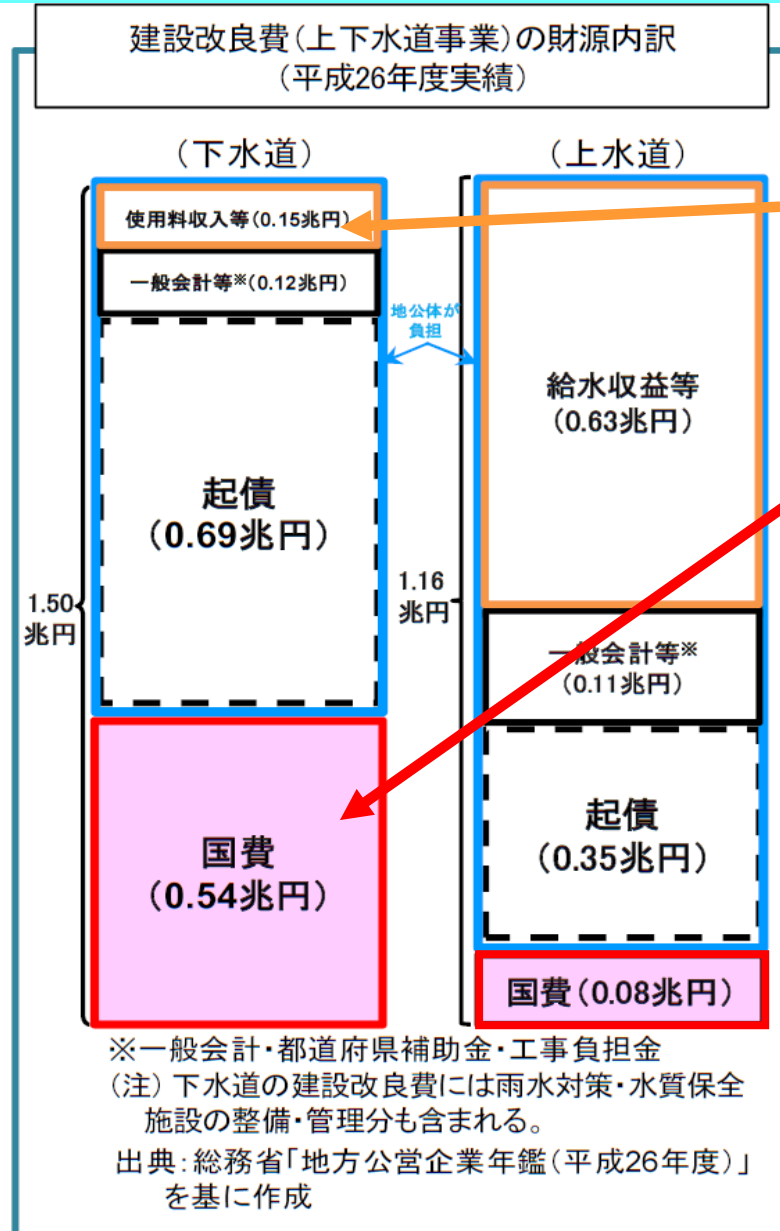
汚水処理システムの最適化
⇒広域化目標の設定等

官民連携

防災・減災

等

下水道事業の財政面の主な課題



水道事業と比較して、

① 受益者負担の原則と整合的になっていないのではないか。建設改良費が使用料収入等でほとんど賄われていない。

② 下水道施設の改築・更新は、国による支援が手厚いのではないかと。

・補助率が高い

下水道：原則1/2、水道：事業内容に応じて1/3、1/4

・補助の対象範囲が広い

下水道：処理施設は限定なし。管渠(下水道管等)は一定以上のものに限定
水道：投資額が一定以上となる水道事業等に限定

・補助額が大きい

下水道：年間約5,000億円、水道：年間約800億円

③ 将来の更新のための経費が十分に積み立てられていないのではないか。

建設改良積立金 下水道：127億円、水道：3,389億円

論 点

- 下水道事業については、水道事業に比べて、国費による支援が大きく、受益者負担の原則と整合的なものになっていないのではないか。
- 自治体等は、下水道事業に関する財務状況を適切に把握し、将来の見通しを立てているのか。
- 下水道事業の更なる効率化のため、どのようなコスト縮減の取組を行っていくべきか。